

戦争と核兵器は不必要

稲垣 和晃

僕は、原爆を体験した池田さんの話を聞いて、広島に起きた被害を改めて知ったので平和について考えることにした。

僕は、第二次世界大戦のことを調べた。第二次世界大戦で亡くなった日本人は、約三百万人だという。そのうちの二百三十万人が軍人で、残りの八十万人は、民間人だという。第二次世界大戦で民間人が八十万人も死んでいる。軍人じゃないのに戦争に巻き込まれるのは、ひどいと思った。日本は、一九四一年にイギリスやアメリカなどの国々と、太平洋戦争をする。日本は八月一五日に降伏した。こうして、アジア、太平洋を戦場とした五年にわたる戦争が終わった。日本は、五年間も戦争をしている。その戦争で、亡くなった人がたくさんいる。だから僕は、もう戦争をしてはいけなと思った。

僕は、国語で平和のとりでの勉強をした。

原爆ドームの永久保存に反対、賛成の意見について調べた。保存に反対の意見は、たくさんの被害をもたらした原爆を思い出したくないという理由だった。賛成の意見は、戦争の恐ろしさを伝えていきたいという理由だった。

戦争や核兵器で一千万人以上の人々が、死んでいるから、これ以上戦争や核兵器で、死者を出してはいけなと思うた。戦争を起ささないためには、一人一人が平和の心を持つことが大切だと思つた。僕も戦争が起きないために平和の心をもとうと思つた。

戦争の恐ろしさと平和へ道のり

中村 桃子

私は、戦争の恐ろしさを伝えていつている池田さんの話を聞いて平和について考えるようになってきました。

原子爆弾とは、名前の通り爆弾ですが他の爆弾とは少し違う所があります。それは、放射線が出ることです。なので原爆が投下されたときそこにいた人達の中で、生き残れたとしても、だいたいは放射線を浴びているので時間が過ぎると被爆が原因とみられる病に倒れてしまうそうです。これを聞いた時私は原爆が恐ろしい物ということを改めて感じました。次に原爆の被害にあった広島の話をしました。広島ではウランという原爆が投下されました。ゴルフボールの重さ（800g）のウランが燃焼するだけで広島は全焼するそうです。私は、すごい威力だなと思いました。最後に、なぜアメリカが日本に原爆を投下したかについて調べたので説明します。まず、

日本とアメリカは戦争をしていました。アメリカが原爆を落とした理由として、「日本がなかなか降伏しないから」と言っていますが日本に原爆を投下した本当の目的は原爆の威力を実証すること（つまり人体実験）そして、ソ連を威嚇することでした。そのためいろいろな策略を実行して2種類の原爆を一発ずつ投下するまで日本を降伏させなかつたらしいです。

私は、平和とは長く続かないと思います。ですが平和になる一つの手段としてコミュニケーションをとることが大事だと思いました。そこで私は近所の人や友達とのコミュニケーションをはじめにやっけていきたいと思います。

戦争をなくして平和に

高橋飛龍

ぼくは、原爆が投下された時に、軍隊には
いっていた人の話を聞いて平和について考え
るようになった。その人は、池田さんとい
う人です。
池田さんのお父さんは、実際に原爆に被爆し
た人です。ぼくは、池田さんの話を聞いて原
爆のことを知った。原爆が落とされてぼぼ中
心部の人々が死んでしまったことが一番心
に残った。なぜ人を殺すために原爆を落と
したのか、と、思っただけで悲しくなりまし
た。次、国語の授業で平和のとりでの勉強
をした。この中で一発の原子爆弾が一瞬で
町を変えてしまったことを学習しました。原
爆ドームが残った世界の人々が見て原爆の
ことを考えるようになった。だから、原爆
ドームが残った世界の人々が平和になっ
てほしい。そのため、世界中の人が平和に
なると協力できるような友達がクラスの人
と協力できるような

したいと思う。

平和とは何なのか、について

三宅 隼太郎

僕が平和について考えるきっかけになったのは、被爆者が父である、池田さんからの話を聞いた。このことで、前からの平和についての思いが強まり、2つの事について調べた。一つ目の池田さんの話では、原爆についてのこと、その後のことなどを知った。その時に僕は、原爆が落とされる前までは、平和だったのに原爆が落とされたとき、人々はどう思っていたのかと思った。そして、原爆が人に害をあたえていない今は、その当時よりは、よっぽど平和になったんだなあと思った。そして、二つ目は、その後に授業で「平和のとりでを築く」という勉強をした。その中には、原爆ドームの歴史や、ドームを取り壊すことについての賛成か、反対か、「平和のとりでを築く」を書いた、筆者の伝えたいことについてなどを学んだ。この中の一つ目の勉強をしたら、池田さんの話で聞いた、原爆

が、落とされる前のことについて知った。そして、そこにいた人たちのことが話を聞いた時より可哀想になった。二つ目に僕は、原爆ドームを保存するかしないかについてを学んだ。僕は保存に賛成だった。僕も、もう戦争をしてほしくないからだ。そして、三つ目の「未来の世界で核兵器を二度とつかってはいけない」という筆者の思いは、僕も同じ思いだ。

そして、この二つから僕は、平和とは人がほぼすべてを左右してしまうものである。しかも、ものすごく多くの人たちが作り上げる平和もたった一人だけでくずれてしまうかもしれないと考えた。そして僕は多くの人たちに声をかけて小さいけれども平和を作っている。そして、一人一人に差別なくすごしてゆくということができると思う。

一発の原子爆弾

山崎梨花

私は、平和について考え始めたのは、池田さんから話を聞いた時です。池田さんは、お父さんが、戦争を体験していて、その池田さんのお父さんの戦争での出来事を話してくれた方です。私は、その池田さんのお父さんの話を聞いて、思いました。戦争の軍に入るのが十七才ということを知ってすごいと思いましたが。しかも、自ら入ったので余計にすごいと思いましたが。

私は池田さんの話を聞いてこう思いました。全身やけどをしてしまった人達は、手ふって歩く事ができなくて、手をななめ前にしなきゃ歩く事ができない。よほど、ひどいやけどだったんだと思います。このような戦争は、長崎でもありました。でも長崎の戦争の方が被害がすかなかった。平和のとりでを築くの学習では、原爆ドームを保存してほしいと言っている人もいます。

あの広島であつた、戦争の事を思い出したくないんだと思います。これが反対意見の一つです。

私は、原爆ドームは、全国から世界まで、知っている人がいるけれど、知らない人も、絶対いると思います。テレビで、放送してもいいと思う。だからもつと原爆ドームの存在が、広がれば、他の国の人も、「戦争はこんなにおそろしんだー」と、思うかもしれない。それで少しは、平和になると思う。私は、こう言う考えをちました。だから他の国の人にも、絶対、戦争を、してほしくないと思ひました。

厳しかった戦争

福島 有那

・戦争に行つたお父さんの話をしてくれた、池田さんに話を聞いて爆弾は、とても怖くておそろしい物だと知つた。

私は、池田さんのお父さんが十七才の時に軍隊へ入り、ここからつらい九日間が始まつた。空を見ると、赤・青・黒・紫が混ざつた色をしていると聞いておそろしい空だったんだなと思つた。物が焼かれたりすると灰色の何もない世界に変化してしまつたのはとてもびっくりしたと思ふし、何だろうとおもつたにちがいない。死体を焼こうと思ひ湖を見ると、沢山の死体が浮いて気持ちが悪くなると思つた。湖に飛びこんだ人達は、全身に火傷を負つていた。湖の水は蒸発をしていて無くなつていたのを聞いて、何人の人が湖に入つたのかと思つた。爆弾の持ちようは、一熱線・二衝撃波・三放射線がある。二の放射線は音速三五〇メートルと言うのはものすごい、

衝撃波だなどおどろいた。三の放射線の中には、 α 線・ β 線・ γ 線・中性子線と言うのがあるとは知らなかった。

戦争の本では、広島、八月、炎のレクイエムと言う本を読み戦争のことを恨んでいたりしていた。戦争をしても、いいことなんて一つもないと思つた。どうして戦争になつたのかと言うと日本が賠償金や土地が欲しかつたからと言われている。今、戦争をしている国はどこかと言うとアフリカにあるスーダニでは何十年前から混乱がつづいているのを見て戦争を、してはいけないうのにどうして、何の理由で戦争をしているのかと思つた。

戦争の本や話を見たり聞いたり読んだりして、るけどどの内容にもむごたらしい皮ふがずれ落ちて死んだ等、原ばくによる被害がすごいのが分かる。戦争をしてもひどいひがいに合う。やっぱり難しいとおもつた。

平和というのは・・・

加藤 黎

私は戦争中の時にひがいにあったお父さんのことを話してくれた池田さんがきっかけで平和について考えるようになりました。そこで初めて戦争のおそろしさを実感しました。教科書の平和のとりでを築くという勉強で戦争のことが分かるようになりました。原子爆弾が落とされる前と落とされた後のちがいがすごく変化していました。そこから原爆ドームの世界遺産への道のりがはじまってきます。原爆ドームを保存するかしないかの意見に分かれました。一人の少女の日記がきっかけで永久保存という形になりました。私は正解だと思いました。絶対に忘れてはいけないうことだしもう、戦争はおこらないでほしいからと思います。世界遺産への動きが高まつたとき広島から全国。全国から世界へと動きが高まりました。そして原爆ドームが世界遺産になりました。世界はとも広いのに世界

まで動きが高まるなんてすごいと思いました。そこで、戦争で死者はどれくらいでたのか知りたくて調べました。1945年8月6日に広島に、9日には長崎に原子爆弾が落とされあわせて30万人以上の人が亡くなりました。私は爆弾の怖さをあらためて知りました。もう一つ調べたいことがあって調べました。今、どこかで戦争は起こっているのかということについて調べました。そしたら、アメリカ v s キューバ。インド v s パキスタン。シリア v s イスラエル。北朝鮮 v s 韓国。他にもたくさんありました。こんなにもたくさん戦争している国があるなら早く解決してほしいと思いました。

私は人々がやさしくて平和な心を持てば戦争はおこらないと考えました。けれど一人でも平和じゃない心を持てば戦争は起こると思います。だから私はやさしい心をもつて生活したいです。そのためにもみんなとかかわりあおうと思います。

戦争というできごと

家後 夏美

戦争という言葉をよく考えはじめたのは、池田さんの話を聞いてからです。池田さんの話を聞いて戦争の恐ろしさを改めてよく知りました。なんでこんな戦争を起こすのかよくわかりませんでした。戦争をして物事をきめるなんて、不公平だと思いました。ただ物事をきめるだけで戦争を起こして、たくさんの人々を犠牲にして巻きこまれた人々が、可哀想です。うまくやれば話合いでとかで決められると思うことを、戦争までに物事大きくして、おかしいと思います。たかが戦争で原爆なんか作って、そういうことを他に使ってほしかったです。今の、平和を守ってほしいと思う心を人々に持ってほしいです。自分も、やさしい心を持つ人になりたいです。

平和とは

松本堅レニン

僕が平和について考えることになったきっかけは、池田さんのお父さんが戦争体験者なので池田さんから話しをきいて原爆のこわさをしって平和について考えてみました。

国語で平和のとりでの話を聞いて、教科書で原爆ドームの保存について調べました。原爆ドームを保存するか、それとも取りこわしてしまいか広島では議論がつづいていて反

対論の中には「原爆ドームを見ていると、原爆がむごたらしいありさまを思い出すので一刻も早く取りこわしてほしい。」という意見がありました。僕はもう原爆のことを思い出したくないだろうなと思いました。市民が原爆ドーム保存えと固まったのは1960年春、急性白血病でなくなった一少女の日記がきっかけでした。市民はその日記を見て、思いを讀んで永久保存となりました。

なぜアメリカと日本が戦争したかというと

ます

戦争をくたしてな

つ戦争はな

洋戦争はお

日本がア

の攻撃か

湾にあら

1941年1

月2カ

8月力

日基地

を始

ま攻

撃し

ハ

マ

ノ

真珠

は

こ

「正義の失敗」

高木優真

皆さんはアメリカでの悲惨なテロ9・11
テロを知っているだろうか。アメリカと言う
「正義」と「平和」の大国で起きたテロだっ
たそのことを初めてニュースで知った時ぼん
やりと戦争は怖いと思った。

そして、大きくなり学校でヒロシマの原爆
投下について勉強し、9・11テロを思い出
し、平和について考えた。それを書いていき
たい。

まず9・11テロに関連したものを書いて
いく。皆さんはイランを御存知だろうか。ア
メリカが核兵器保有の疑いをイランに持ち、
「正義」に基づいて戦った。しかし、制圧し
た後イランでは内戦が発生し、国が混乱する
ことになった。これが二つ目の「正義」の失
敗例だ。では、遡ってみよう。国の「正義」
が衝突した戦争へ。

二つ目の例は原爆についてだ。この第二次

世界大戦の中の戦いを当時の日本では大東亜戦争と云い、アメリカでは太平洋戦争と云っている事からも食い違いが伺える。この戦争では、日本は日本の「正義」に基づいて戦った。しかし市民は死傷し、焼け野原へ変わった。原爆によつて。これが二つ目の「正義」の失敗例だ。

そこで僕の正義・平和・戦争への思いを伝えたい。

「戦争は個別の正義に基づいて事を進めるから起こるのだ。平和を求めらるれば、相手の思想を尊重していくことが平和への第一歩となるだろう」と。

平和への道

小島 香

私は、火垂るの墓の前にやった平和についてのアンケートに答えてから、平和とは何だろうと思うようになりました。

池田さんは、お父さんの被爆体験を学校で話してくれた方です。「ヒロシマの九日間」の話の中で、川の水が一瞬で、沸騰したと言っていました。そのことには、とても驚きました。ウランたった八〇〇グラムで十二万人の人が死んでしまったのは、とても悲しく思いました。死んだ理由も分からない人がいるということも学びました。

平和のとりでを築くでは、一少女のことを知りました。その少女は幼いころ放射線をあびて十何年後、突然被爆が原因で病にたおれたそうです。その少女が残した日記がきっかけで、広島にある原爆ドームの保存が決まったのです。私は、原爆ドームがなかったら、日本だけでなく世界の人々は原爆の恐ろしさ

を忘れてしまっていたと思います。今、原爆ドームがあるのも、世界の人々が原爆のない平和な世界を望んでいるからだと思います。私は、世界の人々全員が平和の心でいれば戦争はおこらないということ、いつどんなときでも平和はくずれてしまおうと思います。戦争などは外国だけが悪いわけではありません。日本も悪いことをしているので同じなのです。また同じことをくり返さないためには、お互いを尊重できるゆとりのある心をもてばいいと思います。全員を同等としてお互いの意見をしっかりと聞く。そのようなことをすれば、戦争はおこらないと私は考えます。

恐ろしい昔と今と未来

横森日花里

私は、学校に戦争の話をしに来てくれた、池田眞徳さんという方の話で戦争をくわしく知った。考えとは、あまりにもちがう・・・耳をふさぎたくなるような、恐ろしい話だった。その時から私は、戦争と平和について考えるようになった。

原爆の温度は、何万・何千万という考えられない温度。その近くにいた人は、焼けこげて、真っ赤になって、手を引っ張ると体がばらばらになる。しかも熱線・衝撃波・放射線という恐ろしい物をあびた。原爆を落とした人は、楽しいだろうか。嫌だろうか。こんなことになるんだったら死んだ方が、ましだ・・・と、誰もが思ったそうだ。

このことを、全世界の人に知ってもらいたい。核兵器が落ちた時の様子を全世界に知ってもらいたいと、思った。今でも核兵器の原料を作っている。核兵器を持っていると外国

と争いをした時、原爆落とすぞ。と言うと、核兵器を持っていない方は、ごめんなさい。と言って争いは核兵器を持っている方が勝つ。そんな関係・話は悲しいと思う。

私は、全世界の人に戦争、核兵器の恐ろしさを知ってもらいたい。・・いつも心に入れておいてほしいと思った。そして全世界の人々と仲良くコミュニケーションをとれば、とても毎日が平和な世界になると思う。コミュニケーションは、ガール・ボーイスカウトなどに入れば、他国の人とコミュニケーションがとれる。私はガールスカウトに以前まで入っていて、外国の人とたくさんコミュニケーションがとれて楽しく良い経験ができた。ただ、それは難しい事。・・だから私は、まず近所の人とコミュニケーションをとろうと思う。それは、いつでもどこでもできる事だから、私は毎日これから、つづけようと思った。

おそろしい原爆と核兵器

遠藤 愛香莉

私は、朝鮮戦争の話題で平和について感じました。現在、北朝鮮と韓国は、対戦状態です。先月、北朝鮮が韓国のヨンピョウ島に包弾約百発を撃ちこみました。兵隊三人・島民一人の死者が出ました。ヨンピョウ島では、二〇〇一年にも両国での打ち合いがありました。今回の事件は、北側からの一方的な戦略だったので、アメリカのオバマ大統領は、激怒したとのこと。私も何も言わないで打ちこむなんて平和ってむずかしいと改めて感じました。

六十五年前な終わった第二次世界大戦の終わりには、広島と長崎に原爆が投下されてからです。広島の死者数は、被爆率七十パーセント・死者率三十パーセントです。また、広島と長崎の両県が原爆の被害にあいましたが、広島のほうが被害がおおきかったです。広島は平野で長崎は、山や壁がおおかったから

です。しかし、両県とも多くの死者が出たのは言うまでもありません。私は、両県の人々が最後まで水を求めて亡くなったのを聞いて、心が悲しくなりました。そこで私は、二どと核兵器が落とされなかったために、全世界の人々に広める必要があると考えました。

次に、国語の授業で使った教科書にのっている。「平和のとりでを築く」を読んてから、また強く平和に対しての気持ちが大きくなりました。この作者は、核兵器に対しての反対が強調されてるので私も同意見でした。また、一番好きな文章があります。「原子ばくだん爆弾が人間や都市にどのような惨害をもたらすかを、わたしたちに無言で告げている。」この文章は、何度読んでも原爆についてのおそろしさが分かります。このような資料は、図書室にもあります。私は、アメリカの人々にも知ってもらいたいと思いました。

このことから、私は「平和とはドミノみたくに押ししたら一秒もしないうちに壊れてしま

うもの。」つと、結論をだしました。

今、私たちが出来ることは、世界の人々との交流を大切にすることだと考えました。

戦争というものがなければ

山下大成

僕が、平和について考えるきっかけとなったのが、池田さんのお父さんが実際に原爆をあびてそれを僕達に語ってくれたということ。で、平和について考えるようになりました。池田さんとは、お父さんが兵隊だったけど、つい最近なくなつたそうです。その人の子どもの池田さんが僕達の学校に来て、話を語ってくれました。

僕は、「平和のとりでを築く」を読んで、原爆の恐ろしさを知りました。当時原爆ドームは、物産陳列館、産業奨励館というなで、親しまれていました。だが、8月6日の8時15分広島に原爆が落とされた。建物は、ほぼ真上から爆風を受けたため全焼はしたものの、れんがの鉄骨の一部は、残った。周りの人たちは、川が死者でうまり、生き残った人々もきづつき、その多くは、死んでいったそうです。

原爆とは、一瞬のうちに、生命、建物、そのようなものをうばっていく恐ろしい兵器です。原爆がなければこのようなむごさを知らずにすんだかも知れないと僕は、思います。

僕は、第二次世界大戦について調べました。第二次世界大戦が始まった理由は、1939年ヒトラーに率いられたドイツがイギリスなどど戦争を始め、世界大戦に発展しました。

僕は、そのほかの戦争についても調べました。そのほかの戦争で死者が1000人という被害者がでたそうです。

僕は、世界の人々を守るために平和があるのだと思う。もし、平和という勉強をしていなければこんなことを考えていなかたと思います。

戦争は壊すもの　へいわはつくるもの

渡邊　翔哉

僕が初めて、平和について考えたのは9歳くらいのことだった。丁度戦争の特集をテレビでやっており、母から戦争のむごたらしさを聞かされ、戦争が無くなるにはどうすればいいのか、と一緒に考えたのがきっかけであった。それ以降教科書で戦争の物語を読み、被爆体験談を聞き、そこで初めて戦争について深く考えるようになった。

原爆の恐ろしさがはっきりと分かるのは原爆ドームの原爆投下前と後の様子からだ。投下前、原爆ドームは産業奨励館として広島市民と深く関わっていた。当時、ドームの前に川が流れ、子供達が元気に遊んでいた。併し原爆投下後、ドームは炎にのみこまれた。原爆をまともに食らったからだ。中に居た人々は全員死亡し、ドームの前を流れる川は死体で埋め尽くされた。そんな様子を、貴方は想像できるだろうか？

原爆は無くすだけでは駄目だ。戦争さえなければ原子爆弾も開発されなかった筈だ。併し何故戦争は起こってしまったのか？それは人間の「欲望」にあった。日清・日露戦争の原因はどちらも大体は人間の欲が生んだものだった。けれどもその答えには過去に何人もの人が辿り着いている筈だ。このことをもっと多くの人に発信できれば、原爆、否、戦争を止める一寸したきっかけになるだろう。

互いに認め合い、理解する気持ちがいっしょか平和に繋がる。たとえ原爆が無くなったとしても戦争はなくならない。その戦争をなくすためにも、「理解」や「認め合い」の必要性が問われてくる。今、僕達子供にできることは皆と関わりをもつことだ。そうして理解は深まり、認め合える。ユネスコ憲章の「戦争は心の中で生まれるものであるから人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という言葉しつかりと受け止めてもらいたい。

戦争根絶のためにも・・・

戦争から私が学んだこと

佐藤 優衣

平和について考えることになったきっかけは、池田さんのお父さんの話を聞いたり、曾祖母の話を幼いころから聞いていたからです。曾祖父も、兵隊になり戦死したと聞いて、どんなに恐ろしいのか知りたかったです。池田さんのお父さんも、兵隊さんでしたが、終戦まで生きのび、つい最近まで生きていた方です。

私は、池田さんから戦争のむごさを聞きました。むごさなど伝えきれないでしょう。お父さんは一七歳で兵隊になりました。戦場に行くとき親せきの生死も分からないのに死体を焼かなければなりません。私ならできません。死体をかき分けて親せきを探すとおもいます。今でも、原爆を落とす理由がよくわかりません。

自分でも戦争について調べました。その中で私は、二つの写真に目をとめました。一つ

はヒロシマの原爆が落ちる前と落ちた後の写真です。本当に同じ場所で撮影したのかと思うくらい変わりはてた場所へとなりました。もう一つは、あのひ、あの時間から決して動くことのない時計です。時計も助けを求めているように見えて、ただの写真でも、私は、原爆の熱さを感じられたように思います。こんなことがあったことを知りながら、ただほかの国では戦争が続いています。今は、平和だという声が各国から聞こえています。地雷で片足をなくしてしまった子供、食べ物がなくて死んでゆく人も多いのです。私は、本当の平和は世界中が同等で全員が同じように生きられることだと思います。

あつてはいけなにかく兵器や戦争

荒巻 太壺

僕は、戦争や原爆について話している池田さんという方の話を聞きました。池田さんの聞いて戦争や原爆は思っていたより遙かにおそろしいものだとなりました。そこで、僕は平和について考えました。

池田さんの話には原爆についての話がありました。原爆の瞬間温度は一千万度だそうです。太陽の温度は表面で六千度なのに原爆は一千万度なんて想像がきませんでした。

それと、原爆の被害についても聞きました。原爆が落とされた後の広島はがれきやだらけの灰色の世界だったそうです。川は蒸発するほど熱く、その中も水を求めてやってきた人の死体がたくさんあつたそうです。また、原爆が落とされ、当時の広島の人口の三分の一は亡くなったそうです。その話を聞いた僕は、げんばくはとてもおそろしい物で必要な物だと思いました。

僕は、核兵器の保有国を調べました。保有国はアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国、インド、パキスタン、北朝鮮の九ヶ国だそうです。僕は、一つでも保有国が減ってほしいと思いました。

それと、太平洋戦争についても調べました。太平洋戦争は日本がハワイのアメリカ軍基地を攻撃して始まった戦争です。戦争が始まり四年と八ヶ月くらいたった時、広島と長崎に原爆が落とされ、日本軍はこうふくしました。

僕は、戦争をしても良い事はないので、戦争は必要ないと思いました。

僕は、平和な世界とは核兵器や争いが世界からなくなり、世界の人々が同じ陽に生活できる世界の事だと思います。平和な世界にするには、他の人との交流を大切にし、他の国についてももっと知る事が大切だと思います。

原爆のこわさ

小野澤 美音

池田さんの話を聞きました。池田さんは、池田さんのお父さんが実際体験したことを話してくれました。原爆のこわさを知りました。死者はどのくらいでたか調べました。八月六日と九日はヒロシマと長崎に原爆が落とされて、合わせて三十万人以上が亡くなりました。隅田川は三月九日から空しゆうで十万人が亡くなりました。

国語の教科書の平和のとりでを築くの内容は、原爆を落とされて平和ではなくなったのがかわいそうだと思います。大きい川は死者でうまるほどだったと言います。私は、写真を見て思ったほど大きかったのでびっくりしました。原爆ドームを保存するかしないかでもめていました。でも少女の日記でみんなの心を動かしたのにはすごいと思いました。戦争で死者は何人もでたからこそ優しい心を

もった方がいいと思いました。

原爆のこわさ

高木 絢加

私が平和について考えることになったきっかけは、前に、広島の実験をした池田さんのお父さんの話をしてくれました。池田さんです。

池田さんの話では、戦争中の広島県のように、すなわち、わかりました。戦争中の広島は、物が飛ばされたり、こわれたりして、何も無い世界だったと言っていました。私は、こわくて、想像もしたくないなと思いました。そして、私が初めて知ったのは戦争中の広島が何も無い世界だったということです。私は戦争はこわいなと思いました。

次は平和のとりでを築くことです。国語の教科書の平和のとりでの7段落の戦争中に落ちた原爆の放射線の被害にあった少女の話です。少女は、死ぬ前に日記を書き、その日記を読んだ市民たちが協力して世界遺産にしようとしたと言う所が私は、少女はたった一人

で何人も市民を動かせたと思うとその少女はすごいなと思ひました。私は平和と言うのは、みんなが平等で苦しみのない世界だと思います。だから私はみんな平等に接すれば、平和になると思うので私も出来るだけみんな平等に接する事にしました。

みんな同等

渡邊 世菜

私は、学校で戦争についてのアンケートが
だされました。その時は戦争についてあまり
知らなかったので、私は戦争について調べて
みました。私はそれから平和について考える
ようになりました。

ある日学校に池田さんと言う人が来ました
池田さんは、お父さんの義三さんと言う人が
体験した「ヒロシマの7日間」という話をし
てくれました。まずそのことからはなします

義三さんは軍の命令でヒロシマに行きまし
た。その時原爆がおとされたが義三さんは、
奇跡的に助かり仲間といっしよに、負傷した
人の手当てや死体の片づけなどをしたりして
8月15日に戦争が終わりました。

次に東京大空襲について話します。
昭和20年3月10日、東京大空襲で10
万人以上の人が亡くなりました。
犠牲者は、生きたまま火あぶりにあい、

あえぎ苦しみ亡くなっていきました。

3月9日警戒警報発令2機のB29が東京上空に飛来、退去したとみせかけ3月10日に、投下東部軍管司令部はきずかず当然空襲に、警報もならない、深川地区から始まったこの空襲の特徴は、夜間の超低空からの、じゅうたん爆撃という点でありこれは火災に弱い日本の都市構造や、防空対策などの弱点をついたものだった。

2時間半の原爆によって下町地区は、廃虚と化した。約2000トンの焼夷弾を装備した約3000機のB29の攻撃による出火は、強風にあおわれ大火事となり40平方メートルが消失、鎮火は8時すぎであった。みなさんは、この2つの話を聞いてどう思いましたか？

きつとなんてひどいんだろうと思うと思います。しかし日本もひどいことをたくさんしていったんです。だから私は、みんな同等で楽しく暮らせたなら平和だなと思いました。

みなさんはどんなことが平和だと思えますか
考えてみてください。

戦争と平和的なやさしい心

松永碧唯

私は池田さんの話を聞いたことが、平和について考えることになったきっかけだった。池田さんのお父さんは実際に戦争を体験している。その池田さんの息子さんから話を聞いた。話の内容から原爆の恐さを初めて知り、そして戦争についての疑問がたくさんわいてきた。

太平洋戦争について調べた。太平洋戦争がなぜ始まったのかが疑問で調べることにした。太平洋戦争がなぜ始まったのか。それは一九四一年一二月八日に日本はハワイの真珠湾にあるアメリカ軍基地を攻撃したことが、太平洋戦争が始まるきっかけとなった。その日から約一五年もの間戦争が続いた。戦争中、国民は召集令状（赤紙）により兵士として戦地に行くことになった。そして学校でも戦争の訓練をしていた。私はこのことを知る前まではアメリカ軍から攻撃してきたとばかり思っ

ていた。なぜかというところ、日本から降伏したことを知っていたのでアメリカ軍から攻撃したのではないかと考えていた。国民は召集令状により、兵士として戦地に行くことを初めて知った。いやでも兵士として戦地に行かなければならないなんてかわいそうだと思った。学校でも戦争の訓練をすると聞いて驚いた。みんな戦争に協力していることが伝わってきた。

国語の授業で平和のとりでを築くという勉強をした。産業奨励館という建物が原子爆弾投下によって原爆ドームと名付けられた。その原爆ドームを保存するかしないかで私は初め反対意見だった。でも被爆が原因とみられる急性白血病で亡くなった少女の日記を読んで賛成意見に傾いた。

戦争の勉強をして、平和とは一人一人が平和的なやさしい心をもてれば自然にできると思った。でもそう簡単にできるものではなく長い時間が必要だと分かった。そして世界中

の人々がみんな同等でなければならぬ。今
私にできることは、平和的なやさしい心をも
つことと、友達に差別のないように接するこ
とだと考えている。

戦争と平和の心

牧野雄生

僕は池田さんの話を聞いてから家に帰って家の人と原爆のことを話したことが、平和について考えるようになったきっかけだった。まず原爆ドームの歴史について調べた。もとは、物産陳列館として一九一五年（大正四年）に、完成した。若い建築家が設計した鉄骨、れんが造りの三階建てで、建物の真ん中には楕円形の円屋根が五階の高さにつき出ている。

次に原爆を落とされた後の原爆物産陳列館について調べました。爆心地にちかかった物産陳列館は、真上からの爆風を受けたため全焼はしたものの、れんがと鉄骨の一部は残った。丸屋根の部分は、支柱の鉄骨がドームの形となった。僕は原爆を一回落とすだけで爆心地に近かった所がすごい被害になる、原子爆弾の怖さを改めて知った。

原爆ドームが世界遺産になるまでについて

原爆ドームを保存するか壊してしまうか、広島では議論が続いた。一九六〇年の春、急性白血病でなくなった一少女の日記がきっかけで、市民、役所、も永久保存に立ち上がった。補強工事が何度かくり返され今の形を保っている。約三十年後広島では、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まった。しかし原爆ドームは戦争の被害を強調する遺跡である。しかし心配は無用だった。僕は世界の人々は、戦争をやめて平和を求める強さを改めて感じた。

次に池田さんから聞いた原子爆弾を落とされた時の事、原爆を落とされた時の地面は三千度で泡を噴いていた。原爆が爆発した所は、空中です。僕は空中で爆発したとは思わなかった。

最後に原爆を落とされた被害は、広島市の十二万人が死んだ。広島市の三人に一人が死んだことになる。亡くなった人はかわいそうだ。

自分の考えを書きます。原子爆弾や核兵器
などを使ってしまうと人の心が変わってしま
う、だから不必要だと思う。

戦争は必要ない

岩崎 南海

僕が平和について考えることになったのは戦争や原爆の恐ろしさを話してくれた池田さんがきつかけだった。

まずは、日本の戦争の歴史について調べた日清戦争では、朝鮮に内乱が起こると、そのすきをについて、日本と清が侵略しようとして戦争が起きた。

日露戦争では、ロシアがもう一度朝鮮に勢力をのぼし始め、朝鮮を侵略した日本との対立は深まり、やがて満州にいたロシア軍を日本が攻撃し日露戦争になった。

次に日中から第二次世界大戦へ。満州にいた日本が南満州鉄道の一部を爆破した事がきっかけ。日本と中国が北京郊外で戦い始め、それが中国各地に広がり日中戦争。そのころヨーロッパではドイツが周りを侵略し始め、これに反対する国々と戦い、アジアもヨーロッパも戦場になる第二次世界大戦へ。僕はど

うして自分が正しいと思ひ、周りを見ないで自分たちの考えだけで進める理由が分からな
い。

次に原爆について話してくれた池田さんの話を聞いて思った事。原爆は直径三キロメートルに被害をおよぼし、当時の広島市の住民の三人に一人を死なせた。この時の原爆でこれだけの力があるのに、今ある核兵器はこれ以上の力をもっているという。そんなもの絶対存在してはいけないとおもう。

僕は他にいやがる事をしようと思わなければ平和になると思う。たとえば、友達から借りた物を無くしてしまった。そうすると借りた友達がいやがる。戦争の場合、関係ない人
たちを巻きこみ、けがをさせたりする。みんないやがる。他がいやがる事をしようと思わなければ、世界中が平和になる。

平和に対する自分の思い

柿沼 勇人

ぼくは、学校に戦争の話をしにきた池田眞徳さんの話で、あらためて戦争のおそろしさを知りました。

池田さんは、学校で、池田さんのお父さんが体験したことを話してくれました。池田さんのお父さんの義三さんは、17才という若さで軍隊に入団しました。1945年8月6日午前8時15分に、広島に原子爆弾が投下さ

れました。原爆が投下されたしゅんかん温度は約100万度で、町全体は、火の海になり人々の半分以上が、亡くなりました。ぼくはこの池田さんの話で戦争は、やっては、いけないことだと思いました。

次は、国語の教科書で、勉強した、平和のとりでを築くで、ぼくは、どうしてアメリカは、日本だけに原爆を投下させ人々の半分以上を殺して、広島の人々を苦しめたのか。原爆ドームは、熱風をあびて、中の人は全員亡く

なりました。だけど広島市民や、全国の人々の熱い思いで、原爆ドームが、世界遺産になるなんて人々の戦争反対の思いがすごく伝わってきます。

ぼくの考えは、平和は、人々の努力をつみかさねて作られるけど、平和をこわせばせつかくつみあげた人々の努力が水の泡になってしまうから、戦争をしては、いけないと思います。

今自分にできることは、世界の人々といっしょに、平和を作ることだと思います。平和とは人々の心の中で生まれるので戦争をする、その人々の心をけがすことになってしまふと、思います。

平和は心の中の宝物

矢吹 優美香

私が平和について考え始めるきっかけになったのは、戦争経験者で原子爆弾の被爆者でもあるお方をお父さんにもつ池田さんの話を聞いてからである。そしてこのときから私は戦争の残酷さ、恐ろしさを知ることになった。私は自ら、ひめゆり学徒隊について調べた。この学徒隊は沖縄県にある二つの女子校から成り立っていたという。人数は看護要員として動員することを志願した生徒二二人と引率教師一八名の合計二四〇名だったという。しかし、解散後の六月一九日から約一週間に多数の犠牲を出し、死亡者のうち実に八〇パーセントがこの間に集中しているという。なかでも、第三外科壕での被害が大きく、壕にいた九六名のうち八七名が亡くなられたという。最終的には、累計二二六人が亡くなられたそう。そんな学徒隊の手記には、当時の教育では投降するのは非国民だと決めつけら

れていたとある。これでは、平和のおもかげはなく、人々の心から「平和」という言葉は消えていたと思う。ただひたすら国のためだけにたえぬいていたのだろう。

そして、国語の授業で勉強した「平和のとりでを築く」という文章ではこんなことが書かれている。国連のユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と。

このことから、平和というのはとても大切なもので、絶対に忘れてはならないものだ、と考えた。それは、平和を忘れたら戦争が起こってしまいかもしれないからだ。つまり、平和は心の中の宝物なのだ。そしてこれから、今、日本以外の国は平和なのか、戦争になりそうなことはないか、しるために、ニュースに注目したい。

核兵器に対する自分の気持ち

粕谷 草太

ぼくは、池田さんの話を聞いて、平和のこ
とを考えるようになりました。池田さんは、
学校で、戦争にいったお父さんが、実際に体
験した戦争の話をしてくれました。

池田さんの話を聞いて、長崎の方がい力は
強つかたけどなぜ広島の方が、多くのぎせい
者を出したのだろう。熱線、中心温度100
万度。100万度は太陽よりも熱いのを初め
て知った。ぼくは、池田さんの話を聞いて、
原爆はすごく危ないものだから、原爆は、こ
のよの中にいらぬものと感じた。

ぼくは、平和のとりでを築くを読んで、原
爆ドームを保存するか、取りこわすか議論が
続いた。でも、急性白血病でなくなった、一
少女の日記で保存へと立ち上がった。ぼくは、
少女の日記を読んで、反対だったのが賛成に
変わった。核兵器は、不必要だところの世界の
人々が思っていると思う。平和のとりでを築

くを読んで戦争は人の心で、できるものだと学んだ。

平和をこわすのは簡単だけど、とりもどすのは難しい。平和をとりもどすには、人の心と、協力と努力が大切。今、ぼくにできることは、平和を地球上の人々ととりもどすこと。たとえば、おたがいを尊重し合う。話し合いで意見がくいちがった時は、おたがいの意見聞き合えばいいとぼくは思います。平和をこわすと人々の日々の努力が水のあわになってしまいます。

平和の心

船木 玄太朗

戦争のことを考えるようになったのは池田さんの話を聞いたあとからでした。このとき僕は初めて戦争の恐ろしさを知りました。

僕はなぜ戦争をするのか理由が分かりません。領地の取り合いとかなら話し合いで決められるのと思います。戦争は起こると関係のない人達も巻きぞえにしてしまいます。

原爆も戦争をしなかったら作られなかったと思います。そうすれば広島の人も長崎の人も平和に暮らしていたと思います。

戦争と平和はいつも僕達の家隣の家ぐらいい近い所で隣り合わせになっているんだと思います。戦争を起こさないようにするには一人一人が心の中に平和な優しい気持ちを作るのが大切なんだと思います。

完